



マイスターだより

川西町立小松小学校
令和8年8月27日（木）No.20
文責：情野 夏美

第2回ベーシック研修を終えて

昨日、県内の教科担任マイスターが一同に会して行われた第2回ベーシック研修に参加してきました。マイスターとしての1学期の実践発表や2学期に向けた取り組みなどを確認しました。その中で、みなさんにもお伝えしたい！ということがありましたので、共有させていただきます。当日の資料も回覧しますので、ご覧ください。

①県教委あいさつより

全国学調の結果を受けて・・・算数は2年連続全国平均を下回っていた…。
→教科の学習の中で、できないことをできるにさせてほしい。

②事務局説明より

7月に5、6年生を対象に行ったアンケート結果を受けて・・・
→「よくわかる」が73.7%と高いが「得意」「好き」が低い。
授業では理解しているが、定着していない、自信がないことが原因か。

③事例発表（3名）

3名の共通点

- ・教師が学び続けている。学ぶことを楽しんでいる。
- ・ふり返りやノート→児童自身が学ぶ方略（目的を達成するための方法）になっている。
- ・教師自身が具体的に言葉（児童主体や伴走などの言葉）を自分がかみ砕いている。

④協議（1学期のふり返り、2学期への展望）

- ・ICTの活用→他者参照、共有、AIで学習アプリを作る、ふり返りの蓄積 など
- ・教科の全学年をまとめた年間指導計画の作成→系統性が分かる。
- ・単元で教材研究を行う。

⑤地区別協議

- ・「使う」と「使いこなす」（目的や状況に合わせて、複数の選択肢の中からより最適なものを・方法を考えられること）は違う。
- ・デジタル、アナログ良さはどちらもあるが、ICTが学びの手助けになってくる。
- ・様々チャレンジできるということは、学習規律が整っているということ。

★特に読んでいただきたいところです↓★

塩井小のマイスターの先生が、小松小の先生方みんなでマイペース学習に挑戦することを知ってくださっていて、「飛行機のようなだね。」とお話してくださいました。「離陸時は、教師がハンドルを握り操縦をして、飛行が安定したら子ども達に操縦を任せる感じがする。」とおっしゃっていました。なるほど！とお聞きして思い出しました。まさに、小松小の校内研で目指す姿の一つであると感じました。裏面にAIに教えてもらったことを絵に描いてもらったものを載せているので、ご覧ください。みなさんがイメージする姿とあっていますか？1時間の授業ではなく、単元、学期、年間を通してイメージでもいいかもしれません。（AI 恐るべし・・・）



～AI より～

操縦席風の机で、子どもがほんとうに“学びのパイロット”になっている世界観になっているはず。

- 計器＝学習計画
- 操縦桿＝学びの進め方
- モニター＝ふり返りや次のステップ
- 背景の空＝学びの広がり
- 教師は後方で見守るだけ

この表現、とてもしっくり
きました！
ぜひ、目指したい姿です！

※文字化けすみません。